

# 社福連NEWS NO.1

高知市社会福祉法人連絡協議会 発行日：平成31年1月  
(お問い合わせ先) 高知市社会福祉協議会内事務局  
(住所) 高知市塩田町18番10号 (TEL) 088-823-9515

地域とつながり、地域をつなごう  
みんなが安心して暮らせるこうちのために



## 高知市社会福祉法人連絡協議会 設立！

社福連では、今後、市内の保育園や特別養護老人ホーム、児童養護施設などが、各自の分野を越えて地域の中で生活課題を抱える方々に対応できる仕組みを考えていきます。

平成30年8月3日、高知市内に事業所を置く18の社会福祉法人が集まり、高知市社会福祉法人連絡協議会（以下社福連）が設立されました。  
社福連会長に選任された、高知市社会福祉協議会の吉岡諄一会長は、選任後のあいさつで、「貧困や高齢者の独居など、制度のはざまに落ちていく見えな課題が山積している。将来的には、多くの法人から賛同される組織づくりに尽力したい」と述べました。



設立総会で発言する吉岡会長



熱く語る谷口次長

「分野を越えた協働実践がつくる共生社会」  
記念講演として、滋賀県社会福祉協議会の谷口郁美事務局次長より、「滋賀の縁創造実践センター」の活動として、一人ひとりが大事にされ、社会的孤立をつくらない共生社会をめざした活動、現行の制度の枠にとらわれず、新たなつながりや視点から課題解決に取り組み活動を紹介いただきました。  
具体的な活動の一例として、特別養護老人ホームを活用した子どもの居場所づくりや、ひきこもりを本人や家族の中だけの課題とせず、地域の課題として考え、ひきこもりの人を排除しない地域づくり活動などが挙げられました。また職員も笑顔でなければ支援はできないとして、婚活も事業の一つとしているそうです。



記念講演



## 社福連 会員法人一覧 (平成31年1月現在)

福井保育協会  
高須福祉会  
ミレニアム  
昭和会  
ねはんの会  
一ツ橋保育園  
土佐香美福祉会

和光会  
南少  
太陽福祉会  
秦ダイヤモンド福祉会  
高知新聞社会福祉事業団  
小高坂更生センター  
朝倉くすのき保育園

せと  
みその児童福祉会  
幸の会  
ふるさと会  
土佐あけぼの会  
高知市社会福祉協議会  
(順不同、以上20法人)

裏面は…？





# 地域により根付いた法人を目指して

## 社福連会員向けの第1回職員研修会を開催！

平成30年11月22日、社福連の会員法人職員を対象とした研修会を行いました。

今回の研修会は「社福連の設立経過および今後の方針」と「社会福祉法人に求められる公益的な取り組み」について、会員法人職員の共有・理解を目的に開催しました。

当日は<sup>15</sup>法人より<sup>46</sup>名が参加し、講演や報告を通じて各分野の専門家である職員が知識を深め、またワークショップでは、それぞれの法人が持つ強みをどのようにして地域貢献に活かせるのか、法人間の連携を具体的にどう進めていくのかなど、活発な意見交換を行いました。

参加者からは「他法人との協力のヒントが得られた」といった法人間連携への気づきや、「まずは各地域の現状確認から」「地域のニーズ掘り起こしが必要」といった、今後の具体的な取り組みに向けての意見が寄せられました。

### 当日のプログラム

- 【1. 講演】  
「社会福祉法人が求められる地域における公益的な取り組み」
- 【2. 報告】  
「高知市社会福祉法人連絡協議会について」
- 【3. DVD視聴】  
「越境する地域福祉実践～滋賀の縁創造実践センターの挑戦～」
- 【4. 意見交換（ワークショップ）】

講演「今、社会福祉法人に求められるもの」

研修会では、高知県社会福祉法人経営者協議会事務局の仙頭正輝氏より「社会福祉法人が求められる地域における公益的な取り組み」と題してご講演いただきました。講演では、近年の社会福祉法改正に伴い、社会福祉法人に対し、「地域における公益的な取り組みの実施する責務」が規定され



ワークショップの様子

また、お話しの中で「各地域で公益的な取り組みの実践を重ね、地域共生社会におけるイニシアチブをとることが、これからの社会福祉法人の存在意義そのもの」と述べ、今後の社会福祉法人のあり方を示されました。



講演中の仙頭氏

「地域貢献」と聞くと、何やら難しく聞こえますが、実際は、地域に困りごとがあったときに、自分たちが力になれるのなら手伝って、住民さんが「助かった」となれば、それが地域に対する貢献、あるいは公益的な取り組みになるというだけなのかなと、個人的には感じています。一方で、地域の催しをお手伝いする際に、私たちが気をつけていることがあります。それは「自分たちだけでやりすぎないこと」です。それぞれの地域には、元々備わっている力があります。あくまで私たちは地域に足りない部分を手助けするような形ではないといけないと思います。実際に関わらせていただいている地域行事への参画も、私たちがやりすぎてしまうと、地域ではなく法人のイベントになってしまうかもしれませんし、その関わり方が難しいと感じています。もちろん、私たちも地域のお手伝いはしたいのですが、法人という大きな組織でやってしまうと、本来地域に備わっている力を損ねることにもなりかねませんので、そこを意識していく必要があるのではないのでしょうか。



## 会員法人の取り組み紹介 第1回 秦ダイヤライフ福祉会



絆の広場 施設長 佐井 健二 氏

### 地域の力を大切に

このコーナーでは、社会福祉法人に求められている、「地域における公益的な取り組み」について、実際に社福連の会員がどのように考えながら取り組みを進めているのか、実例を交えてご紹介します。

記念すべき第1回は、秦ダイヤライフ福祉会の取り組みについて、同法人の事業所「特別養護老人ホーム 絆の広場」の佐井施設長と、岡邑生活相談員にお話しを伺いました。



絆の広場 生活相談員 岡邑 隆広 氏

### 住民の声をつなげて交流を

当会では「利用者負担軽減制度」の対象者に、部屋代や食費を施設側が負担する形で年間予算を立て、住み慣れた地域で暮らし続けるためのお手伝いをしています。また「地域ふれあい介護予防事業」として、施設利用者のご家族や地域の住民さんからの声があつたことで、施設スペースの一部を地域に開放し、百歳体操や脳の健康教室などを開催しています。終了後、参加者から「最近こういうことで困っちゃうがよ」など介護に関するご相談を受けることもあり、福祉サービスの紹介や、相談機関へ繋ぐよう心がけています。

他にも、絆の広場と隣接する一宮中学校さんとは、学生ボランティアによる施設への慰問活動をはじめ、学校の家庭科実習で作成したお菓子を施設内で低額で販売していただいたり、学校行事の際には施設の利用者をご招待いただくなど、ほぼ毎月、活発な交流を行っています。現在はまだ検討段階ですが、絆の広場の隣に開設予定の救護施設誠和園で子ども食堂をとの声もあります。今後も交流を続けていきたいですね。

佐井さん、岡邑さん  
ありがとうございました！